

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between mode of delivery and postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

分娩方法と産後うつ状態との関連: 子どもの健康と環境に関する全国調査

ユニットセンター(UC)等名: 大阪 UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Epidemiology

年: 2021 DOI: 10.2188/jea.JE20210117

筆頭著者名: 馬場 幸子

所属 UC 名: 大阪 UC

目的:

産後うつは、自殺を含め健康に負の影響がある。分娩方法の違いが産後うつに影響する可能性が示唆されているが大規模疫学調査では検討されてこなかった。本研究では、分娩方法と、産後1か月・6か月における産後うつ状態との関連について検討することを目的とした。

方法:

単胎生児を出産した 89,954 名の産婦を対象とし、分娩方法と産後うつ状態との関連について検討した。産後うつ状態は、エジンバラ産後うつ質問票の得点 13 点以上(世界的に使用される基準)で評価した。出産時までの背景要因を調整した多変量ロジスティック解析を行い、オッズ比及び 95%信頼区間を算出した。妊娠中抑うつのある群とない群に分類して解析した他、児の栄養法(人工乳を使用したか)について更に調整した追加解析を実施した。

結果:

89,954 名の産婦のうち、産後1か月で 3.7%、産後 6 か月で 2.8%が産後うつ状態であった。自然分娩群と比較して、帝王切開群では産後1か月時点で産後うつ状態とわずかに関連があったが[多変量調整オッズ比 (95%信頼区間): 1.10 (1.00-1.21)]、産後 6 か月では関連を認めなかった[1.01 (0.90-1.13)]。妊娠中に抑うつ状態のある群とない群に分類して解析すると、妊娠中抑うつ状態ありの群で関連を認めた[1.15 (1.03-1.28)]。児の栄養法について更に調整した解析において、これらの関連は認められなかった。

考察(研究の限界を含める):

本調査の結果では、帝王切開による出産が産後1か月時点の産後うつ状態とわずかに関連するが、産後 6 か月時点では関連しないこと、妊娠中抑うつ状態のある群とない群に分類すると、妊娠中抑うつ状態ありの群でのみ帝王切開と産後1か月時点の産後うつ状態との関連が認められた。本研究の強みは、2つの時点の産後うつ状態評価を用いていることが挙げられる。本研究の限界は、緊急帝王切開と選択的帝王切開を区別せずに解析している点、産後うつ状態や妊娠中の抑うつ状態が自己回答であり医師の診断によるものでない点などが挙げられる。

結論:

帝王切開による出産と産後1か月時点の産後うつ状態がわずかに関連するが、産後6ヶ月時点まで遷延はしないことが示唆された。妊娠中に抑うつ状態があって帝王切開で出産した産婦は、少なくとも産後1ヶ月頃までは産後うつ状態のモニタリングを行うことの必要性が示唆された。